

製品名: PAK5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15710**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	PAK7
別名	PAK7; KIAA1264; PAK5; Serine/threonine-protein kinase PAK 7; p21-activated kinase 5; PAK-5; p21-activated kinase 7; PAK-7
遺伝子 ID	57144.0
SwissProt ID	Q9P286
免疫原	抗血清はヒト PAK7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 661-710

背景

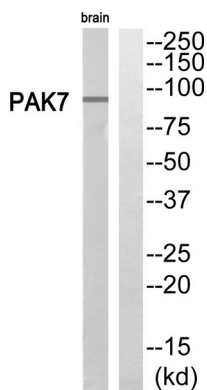
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Ser/Thr タンパク質キナーゼの PAK ファミリーのメンバーです。PAK ファミリーの

メンバーは、細胞骨格のダイナミクス、増殖、および細胞生存シグナル伝達の調節に関与すると考えられる Rac/Cdc42 GTPase のエフェクターとして知られています。このキナーゼは CDC42/Rac1 相互作用結合 (CRIB) モチーフを含み、GTP 存在下で CDC42 に結合することが示されている。このキナーゼは主に脳で発現しています。神経突起の伸長を促進する能力があるため、神経突起の発達に役割を果たしている可能性があります。このキナーゼは微小管ネットワークに関連しており、微小管の安定化を誘導します。このキナーゼの細胞内局在は、細胞周期の進行中に厳密に制御されています。同じタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: 活性化されたキナーゼは様々な標的に作用する。PTM: CDC42/p21 によって活性化されると自己リン酸化される。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。STE20 サブファミリー。類似性: 1つの CRIB ドメインを含む。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: GTP 結合型 CDC42/p21 および RAC1 と密接に相互作用するが、GDP 結合型 CDC42/p21 および RAC1 とは相互作用しない。組織特異性: 主に脳で発現する。

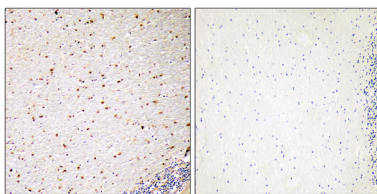
研究分野

ErbB_HER;軸索誘導;接着斑;T 細胞受容体;アクチンと細胞骨格を制御;腎細胞癌;

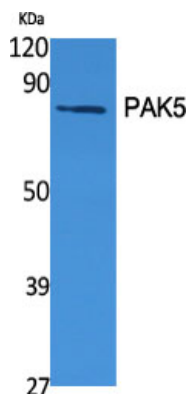
画像データ



PAK7 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは PAK7 ペプチドでブロッキングされている。



PAK7 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右レーンは PAK7 ペプチドでブロッキングされている。



PAK5 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

PAK5 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析

